

# 学校評価のまとめ

—福島市立平野中学校—

【評価点】「そう思う」(4点), 「だいたいそう思う」(3点), 「あまりそう思わない」(2点), 「そう思わない」(1点)で点数化  
【平均値】 3.25以上: A / 2.5以上~3.25未満: B / 1.75以上~2.5未満: C / 1.75未満: D

実践目標	教職員の自己評価項目と評価の観点・自己評価					外部評価		学校関係者評価	具体的成果(○), 課題(●), 改善策・要望等(※)		
	大	自己評価の項目	総合評価	小	自己評価の観点	観点評価	保護者		生徒	教職員自己評価の自由記述	学校関係者評価の自由記述
学校運営の基本姿勢	1	教育目標(敬愛 自学 忍耐)の達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	3.30	1-1	「報告・連携・相談」の原則	3.50 A	B	/	A	○教育目標具現化に向けての協力体制 ○教職員の協働体制② ○PTA厚生委員会との協力 ○職場体験、大生支援学校との交流 ○先輩を尊敬し、継承しようとする校風 ○PTA行事への積極的な参加 ○保護者と協力した進路指導 ●自信と誇りを持った校歌合唱④ ●自主的な研修の推進② ※集会での校歌合唱の導入	○「開かれた学校」を意識した学校運営が随所に感じられた。 ○先生方が一丸となって生徒のためにがんばることはよいことであると思う。 ●校歌の声の大きさは、昨年から指摘されている課題である。 ※緑化後援会の剪定作業に先生方や保護者、生徒のボランティアを募ったらどうか。
				1-2	チーム学校による取組	3.30 A					
	2	平野中生としての誇りを胸に、将来の夢実現を目指し、諸活動に取り組ませている。	3.32	2-1	誇りをもった校歌斉唱	3.00 B	B	B	A		
				2-2	個に応じた進路指導の工夫	3.35 A					
3	保護者や地域のからの理解と協力が得られるよう、積極的に働きかけている。	3.35	3-1	保護者の理解と協力	3.30 A	A	/	A			
			3-2	地域の理解と協力	3.40 A						
			3-3	PTA、地域行事への参加	3.35 A						
4	教育のプロとして、日々指導力の向上に向け、意欲的に研修を行っている。	3.03	4-1	カウンセリングマインドの向上	3.10 B	B	/	B			
			4-2	自己研修テーマへの取組	3.00 B						
			4-3	各種研修への参加	3.00 B						
相いよりの心に学ぶ生徒	5	あいさつ、清掃活動等集団生活の基本を身に付けさせ、好ましい集団・仲間づくりを促している。	3.48	5-1	元気なあいさつの励行	3.55 A	A	A	A	○あいさつ啓蒙活動の推進③ ○清掃活動への取組 ○外部講師の協力による果樹栽培体験② ○教科における外部講師の活用 ○職場体験への取組 ○道徳の授業の配列を工夫 ●自己指導能力、自己有用感の育成 ●道徳の評価に関する研修③ ●道徳の授業の完全実施とスキルの向上③ ※あいさつの大切さを考える機会の設定② ※大人が率先したあいさつを② ※生徒の力を伸張させる競争力	○中学校を訪問した際の生徒のあいさつが素晴らしい。 ●道徳の授業の難しさがあるのではと思う。 ※あいさつは大人になっても必要なので、小学校との連携を図りながら啓蒙活動をしていただきたい。
				5-2	清掃活動の充実	3.60 A					
				5-3	身だしなみと言葉遣いの指導	3.30 A					
	6	自立・ふれあい・生き方指導に重点を置いたキャリア教育を推進している。	3.24	6-1	3年間を見通した推進	3.45 A	B	A	A		
				6-2	地域の教育力の活用	3.21 B					
				6-3	自己有用感を育む指導の工夫	3.05 B					
	7	地域や様々な学校、関係機関等、外部の人々との交流を推進している。	3.41	7-1	外部講師の積極的な導入	3.42 A	B	/	A		
				7-2	地域体験活動の導入	3.42 A					
7-3				福祉施設等外部機関との交流	3.40 A						
8	自己を見つめさせる道徳教育に前向きに取り組んでいる。	2.65	8-1	授業の完全実施と資料の開発	2.72 B	B	B	A			
			8-2	自己指導能力の育成	2.78 B						
			8-3	教科化に向けての評価の研修	2.44 C						
自ら進んで勉強する生徒	9	生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、分かりやすく工夫した授業をしている。	3.25	9-1	わかる授業のための教材研究	3.21 B	B	B	A	○効果的な朝の読書の時間② ○学習の約束事の徹底 ○各種コンテンツへの取組② ○教科指導の工夫と見直し⑤ ○NIEをもとにしたスピーチの継続 ○図書館利用推進と読書啓蒙の取組③ ●課題等未提出者の固定化 ●自学ノートの内容の充実 ●現職教育の機能を生かした授業改善② ●ICTを活用した授業の研究② ●振り返りの時間の工夫 ※図書や新聞を活用した授業、スピーチ②	●保護者が子どもの家庭学習の実態を把握しているのだろうか。 ※一人ひとりの生徒が自信を持てるまで教科の内容を指導していただきたい。 ※一人ひとりの生徒と向き合っただけで学習能力を高めていくことが子どもの成長に不可欠であると考えている。
				9-2	基礎基本の確実な定着	3.26 A					
				9-3	各種コンテンツへの取組	3.26 A					
	10	アクティブ・ラーニングやICTを活用した授業を実践する。	3.13	10-1	言語活動の充実	3.17 B	B	B	B		
				10-2	主体的、対話的な時間の確保	3.06 B					
				10-3	振り返りの時間の工夫	3.17 B					
	11	学習の約束事や好ましい学習習慣を確立し、授業に集中できるよう指導している。	3.34	11-1	学習の約束事の徹底	3.42 A	B	B	A		
				11-2	規則正しい生活習慣の確立	3.37 A					
				11-3	自主学習ノートの質の向上	3.22 B					
	12	豊かな読書活動推進のため、前向きに取り組んでいる。	3.17	12-1	朝の10分間読書の取組	3.56 A	B	/	A		
				12-2	図書館の積極的活用推進	2.94 B					
				12-3	読書啓蒙活動の推進	3.00 B					
最後まで困難にとりくみ	13	健康の保持増進のため、実践力の向上に努めている。	3.30	13-1	早寝・早起き・朝ご飯の啓蒙	3.30 A	B	B	A	○生活習慣の改善 ○係、委員会活動の充実② ○不登校生徒・保護者との対応④ ○問題行動への早期対応と再発防止⑤ ●「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底 ●不登校生徒に対するアクション⑤ ●学力不振による不登校の増加 ●教育相談スキルの向上 ※情報モラル教育の推進 ※SC、SSWとの連携 ※あえて試練を与える場面の設定 ※生徒会委員会の再編成(保健と給食)	●スマホの利用が生活習慣の乱れに繋がっているのではないかと。 ※生徒のみならず保護者に親としての自覚を促す働きかけをPTAと連携して行って欲しい。
				13-2	授業、部活動での体力向上	3.25 A					
				13-3	係、委員会活動の充実	3.35 A					
	14	不登校生徒とその保護者への支援に努めている。	3.25	14-1	「チームひらの」としての対応	3.16 B	B	/	A		
				14-2	保護者に寄り添う柔軟な対応	3.47 A					
				14-3	新たな不登校を出さない取組	3.11 B					
15	いじめや問題行動の未然防止と早期解決、再発防止に努めている。	3.32	15-1	早期発見、早期対応、早期解決	3.25 A	B	A	A			
			15-2	規範意識を高めるための指導	3.50 A						
			15-3	状況に応じた教育相談の工夫	3.20 B						
16	保健・安全指導の充実に努めている。	3.09	16-1	生活習慣病予防に関する取組	3.00 B	B	A	B			
			16-2	食に対する指導の充実	3.16 B						
			16-3	危機回避能力の育成	3.11 B						
開かれた学校・連携	17	地域の特色や地域の教育力を生かした教育活動をしている。	3.19	17-1	積極的に地域を学ぶ姿勢	3.16 B	B	B	A	○果樹栽培体験活動による地域理解 ○伝統を大切にし礼節を重んずる姿勢 ○学校・学年だよりによる情報の発信⑥ ○小学校の先生との良好な関係構築 ○小中連携による小学校文化理解の推進③ ●地域教材の開発 ●HPによる更なる情報の発信 ●小中連携の負担 ●高校との連携 ※果樹栽培体験の発展(教科、行事へ) ※たよりが届いているかの確認② ※幼・保・小・中連携の継続、拡充②	○小中連携については中学校にリーダーシップをとっていただき感謝している。② ※中学生にありがたさをもつ交流(英語弁論、合唱)ができるようにしたい。 ※検定の代わりにRSTを導入し、教員研修を実施すれば、学力向上につながると思う。 ※各種団体や関係機関との連携を具現化させていく必要がある。 ※生徒が地域を理解することは大切であると考える。 ※小中連携の次への発展と保護者を取り込んだ活動が必要であると思われる。
				17-2	地域人材の積極的活用	3.16 B					
				17-3	各種団体や関係機関との連携	3.26 A					
	18	各種たより(学校・学年・学級・保健・進路等)、ホームページ等で有効な情報を提供している。	3.39	18-1	学校・学年だよりによる提供	3.74 A	A	/	A		
				18-2	HPによる情報発信	2.95 B					
				18-3	緊急メール配信の活用	3.47 A					
	19	学校評価の結果を分析、公表し、次年度の教育計画等に生かしている。	3.56	19-1	アンケートの実施と分析	3.58 A	B	/	A		
				19-2	結果の公表	3.58 A					
19-3				次年度教育計画への反映	3.53 A						
20	小・中の連携並びに中・高の積極的な連携推進に努めている。	3.42	20-1	平野小と「子どもを繋ぐ」取組	3.68 A	A	/	A			
			20-2	平野小と「学びを繋ぐ」取組	3.47 A						
			20-3	高校や支援学校との連携	3.10 B						

高評価 ← 評価メーター → 低評価 (※次年度の重点努力事項)

